



但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G2338号)

令和5年10月10日
兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

1. 令和5年度日本海ソデイカ（あかいか）漁況情報（中短期予報）

これまでの調査結果をもとに、別紙のとおり「令和5年度日本海ソデイカ（あかいか）中短期漁況予報」を取りまとめましたのでお知らせします。

現況と見通し(予報対象期間:令和5年10月中旬～11月)

【今期の漁況:10月上旬まで】

- ・ 漁況指標値(香住支所の1日1隻あたり漁獲量)は、9月上旬は12kg、9月中旬は29kg、9月下旬は36kg、10月上旬は47kgで過去10年平均を大きく下回る水準で推移。
- ・ 漁獲物のサイズは10月上旬時点で概ね胴長30cm台(体重約1～2.2kg)を中心に30cm台～50cm台(約5～9kg)が主体。群れの加入(来遊)は例年より1ヶ月程度遅く推移。

【今後の漁況予報】

- ・ 過去の傾向から本格的な漁期に入る9月の水準が低調な場合は漁期後半も引きずることが多く、低迷した直近3年(1日1隻あたり漁獲量89kg±45kg:直近3年の10-11月平均値)と同程度～やや下回る水準で推移する見込み。
- ・ 今後の漁獲サイズは引き続き幅広いサイズが見込まれ、直近の漁獲主体が成長した胴長40cm台が中心となり、これに50cm台～60cm台も加わると考えられる。

【漁場環境の推移】

- ・ 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しの規模は「かなり小さく」、接岸状況は「はなはだ離岸」で経過する見込み。海況予測システムから冷水域の中心部は概ね東経134°北緯38°付近にあると推定。
- ・ 対馬暖流域の表面水温は「かなり高め」、50m深水温は日本海西部で「やや高め」で経過する見込み。
- ・ 冷水域の規模と張り出しの経過、好漁場の指標となる水深50m深の19℃等温線、水深100mの15℃等温線の分布から、イカの分布は広く分散しやすいと考えられる。

詳細は別紙資料でご確認ください。
当センターのホームページにはカラー版を掲載します。
<https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/>

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター（担当：鈴木）

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684
ホームページ： <https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/>

令和5年度日本海ソデイカ(あかいか)漁況情報(中短期予報)

* 但馬地域の沿岸漁業にとって重要な対象種となっている「ソデイカ(あかいか)」について、今期のこれまでの漁況と中短期的な漁況予報をお知らせします。

現況と見通し(予報対象期間:令和5年10月中旬～11月)

【今期の漁況:10月上旬まで】

- ・ 漁況指標値(香住支所の1日1隻あたり漁獲量)は、9月上旬は12kg、9月中旬は29kg、9月下旬は36kg、10月上旬は47kgで過去10年平均を大きく下回る水準で推移。
- ・ 漁獲物のサイズは10月上旬時点で概ね胴長30cm台(体重約1～2.2kg)を中心に30cm台～50cm台(約5～9kg)が主体。群れの加入(来遊)は例年より1ヶ月程度遅く推移。

【今後の漁況予報】

- ・ 過去の傾向から本格的な漁期に入る9月の水準が低調な場合は漁期後半も引きずることが多く、低迷した直近3年(1日1隻あたり漁獲量89kg±45kg:直近3年の10-11月平均値)と同程度～やや下回る水準で推移する見込み。
- ・ 今後の漁獲サイズは引き続き幅広いサイズが見込まれ、直近の漁獲主体が成長した胴長40cm台が中心となり、これに50cm台～60cm台も加わると考えられる。

【漁場環境の推移】

- ・ 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しの規模は「かなり小さく」、接岸状況は「はなはだ離岸」で経過する見込み。海況予測システムから冷水域の中心部は概ね東経134°北緯38°付近にあると推定。
- ・ 対馬暖流域の表面水温は「かなり高め」、50m深水温は日本海西部で「やや高め」で経過する見込み。
- ・ 冷水域の規模と張り出しの経過、好漁場の指標となる水深50m深の19°C等温線、水深100mの15°C等温線の分布から、イカの分布は広く分散しやすいと考えられる。

※日本海西部海域の海況予測には、国立研究開発法人水産研究・教育機構の改良版我が国周辺の海況予測システム(FRA-ROMSII <https://fra-roms.fra.go.jp/fra-roms/public>)を利用したほか、同機構の2023年度第3回日本海海況予報(<https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2023/index.html>)、日本海漁場海況速報(<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/Physical/sokuho.html>)、気象庁の日本海の診断表、データ(https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/shindan/index_subt.html)を参考にしました。

1. 漁況の推移(図1)

漁況の指標としているJF但馬香住支所の1日1隻あたりの漁獲量(旬別平均値)は、9月上旬まではほぼ操業がなく、9月中旬は29kg、9月下旬は36kg、10月上旬は47kgで推移しています。

来遊指標は緩やかに上昇していますが、過去10年平均を大きく下回る水準で推移しています。

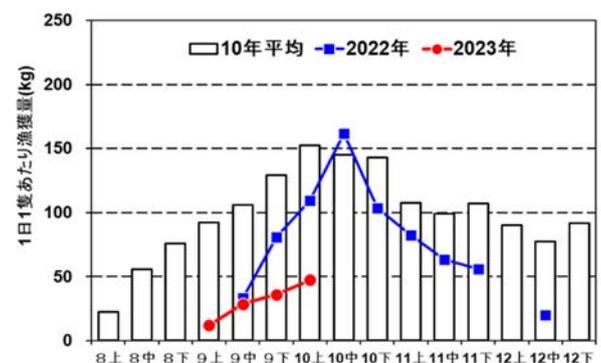


図1 旬別1日1隻あたり漁獲量の推移

2. 漁獲物組成の推移 (図2)

JF 但馬香住支所での市場調査の結果、測定サンプル数は充分ではないものの、9月中旬では主体となるサイズは胴長 30cm 台(約 1~2.2kg)~40cm 台(2.2kg~5kg)、同下旬は概ね 40cm 台を中心に 30cm 後半~50cm 台前半、10月上旬は 30cm 台を中心に 30cm 台~50cm 台(約 5~9kg)でした。

今漁期は来遊時期が例年より1ヶ月程度遅く、漁獲物サイズの主体も10月上旬までとしては例年と比べて10cm~20cm 程度小さいものでした。

現況は30cm 台の小型個体の割合が多くみられ、9月後半の主群に続いて新たな加入が続いたと考えられます。

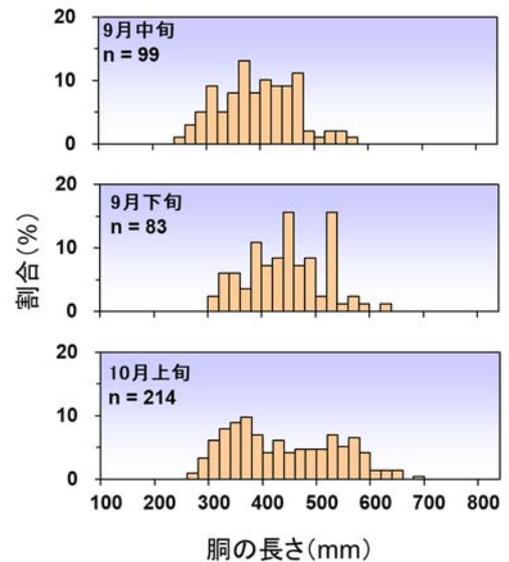


図2 漁獲物の体長組成

3. 漁場環境の推移 (図3)

これまでの調査により、好漁場は水深 50m の水温が 19℃以上、水深 100m の水温が 14~15℃以上の海域に形成されることが分かっています。また、この時期の山陰沖漁場の水温は、季節的な変動よりも沖合部に出現する冷水域の動きに大きく影響されます。

今漁期の 50m 深、100m 深の水温の変化を「改良版我が国周辺の海況予測システム(FRA-ROMS II)」により予測しました(図3-1~3)。

- ・太い赤線(50m 深の 19℃、100m 深の水温 15℃)示した等温線よりも水温の高い海域が「好漁場」となる可能性のある海域です。
- ・現況では冷水域の中心部は東経 134° の沖合の北緯 38° 付近に推定され、これが今漁期の漁場形成に影響すると考えられます。

【10月上旬】(図3-1)

- ・但馬沖の 50m 深では、19℃等温線は北緯 37° 以北に冷水域の外縁として分布。
- ・但馬沖の 100m 深では、15℃等温線は概ね隠岐諸島から北東に延び冷水域の東側に沿って分布。

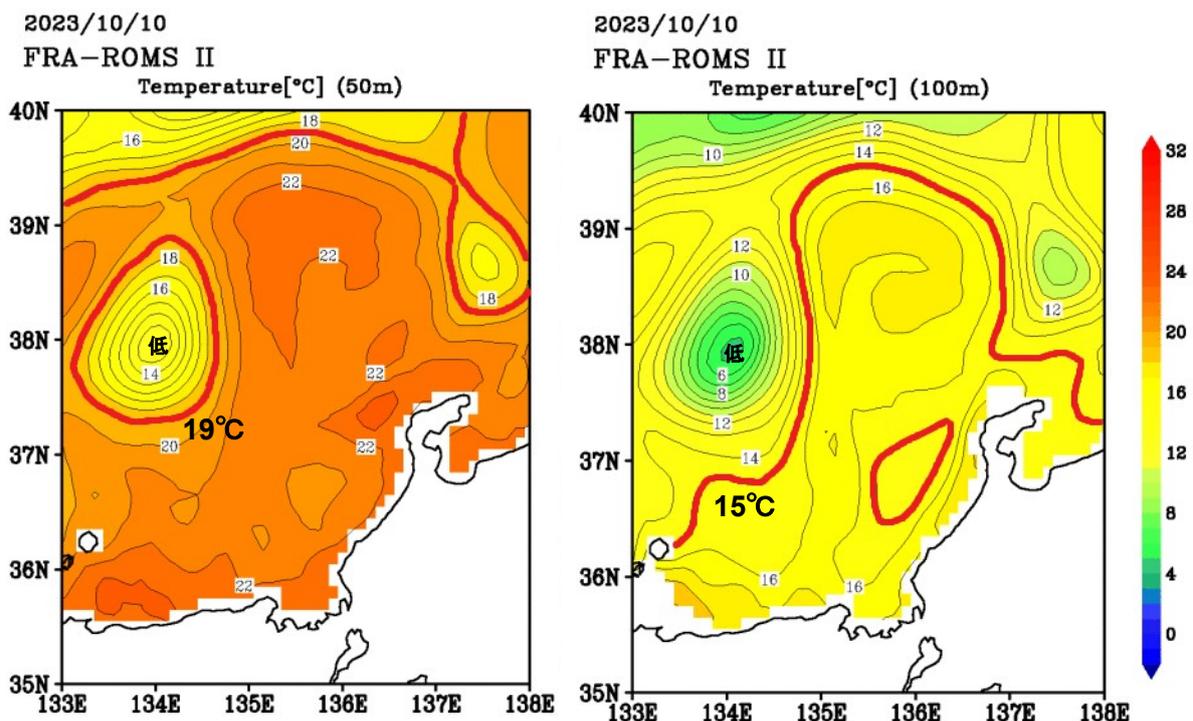


図3-1 水深 50m(左)、水深 100m(右)の水温分布予測
(太線:50m 深における 19℃等温線、100m 深における 15℃等温線)

【10月中旬】(図3-2)

- ・依然として但馬沖の50m深では、北緯37°以北に19°C等温線が分布し、水温19°C以上が沖合まで広く分布。
- ・冷水域の中心部はほぼ定在。依然として但馬沖の100m深では、概ね隠岐諸島から北東に延び冷水域の東側に沿って分布。北緯36°以南では概ね等温線は東西に延びており、岸側ほど高い水温が分布。

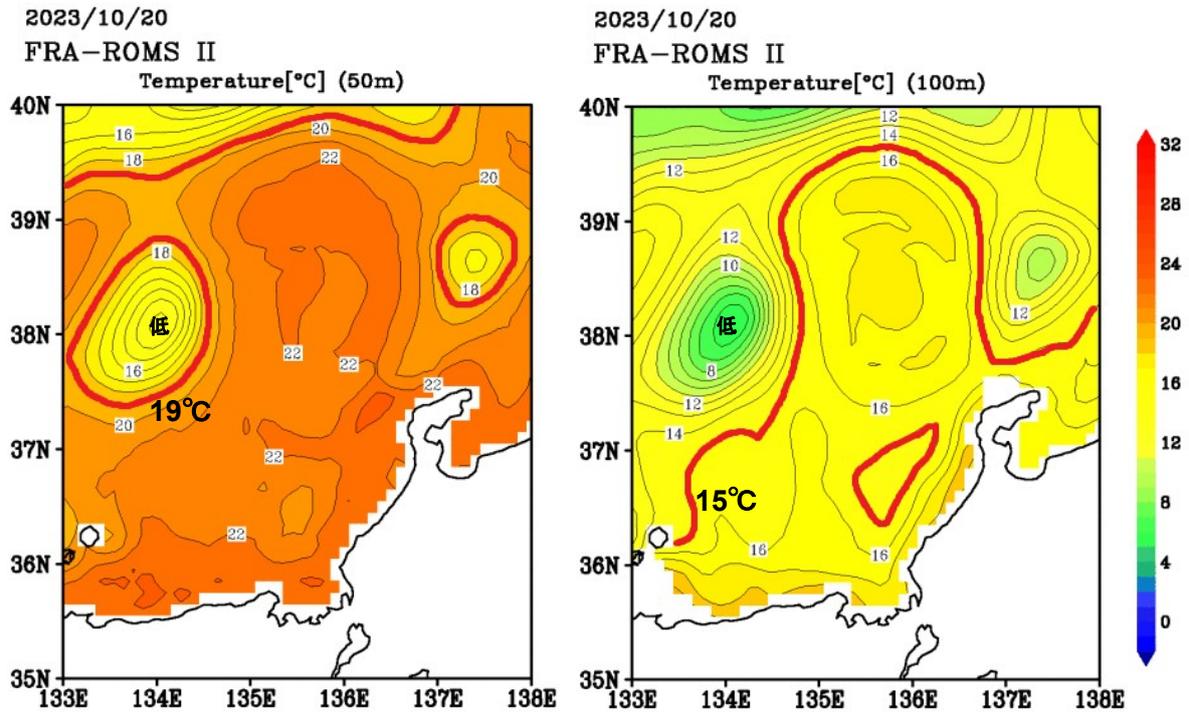


図3-2 水深50m(左)、水深100m(右)の水温分布予測
(太線:50m深における19°C等温線、100m深における15°C等温線)

【11月上旬】(図3-3)

- ・依然として但馬沖の50m深では、北緯37°以北に19°C等温線が分布し、水温19°C以上が沖合まで広く分布。
- ・冷水域の中心部はほぼ定在。依然として但馬沖の100m深では、概ね隠岐諸島から北東に延び冷水域の東側に沿って分布。北緯36°以南では概ね等温線は東西に延びており、岸側ほど高い水温が分布。

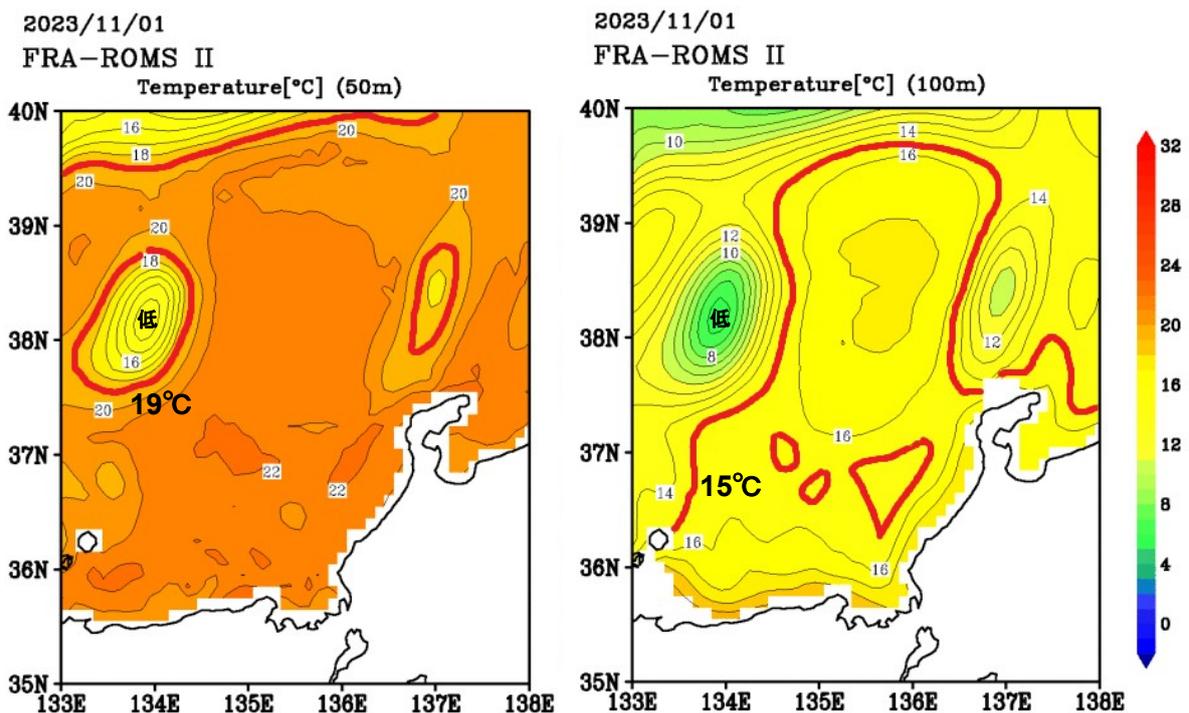


図3 水深50m(左)、水深100m(右)の水温分布予測
(太線:50m深における19°C等温線、100m深における15°C等温線)